おおさかまちさんちょうめかいしょ
大坂町三丁目会所

復元した町会所の概要をご紹介します。町会所は会所もしくは会所屋敷とも呼ばれ、町が所有する施設でした。町の自治を担う中心的な施設だったのです。路地奥に建てられることが多かったと言われていますが。通りに面して建てられることもありました。また。町内に住む家持・家守が定期的に寄り合い、町の運営について話し合う施設でもありました。現代でいうコミュニティセンターといったところです。

ひのみやぐら
火の見櫓

町によっては火の見櫓を会所の屋根の上にのせることもありました。『守貞謾稿』（もりさだまんこう）の『大坂火見櫓之図』には、『屋上ニ建、専ラ会所ノ屋上ヲ用フ、内ニ半鐘を釣ル』とあり、屋根の上に櫓をのせることが紹介されています。しかしながら、一町ごとに櫓が設けられていたというわけではなく、数カ町でひとつ建てられ、普請・補修の費用はそれぞれの町で分担されていたのです。

『街能噂』

用水

木造建ちが圧倒的に多かった江戸時代の大坂の町。人々がもっとも恐れたひとつが火事でした。現在でも初期消火がいかに大切であるかがわかるように、江戸時代の人々も出火には気苦労が耐えませんでした。江戸では用水桶は木の桶でしたが、大坂では立派な石造だったのです。

はやし太鼓と時廻り（ときまわり）の太鼓

安政三年（一八五六）に記された随筆『浪花の風』によると、江戸時代の大坂では神事や祭礼以外にも太鼓を使用することがたくさんありました。三郷市中の夜回りの番人が毎夜時を知らせるのに提げ太鼓を叩いて時を告げていました。拍子木を使うことは絶えてなくなっていました。

また三味線唄などにも太鼓を必ず使い、一曲の唄が終わった所で太鼓を叩きたてるのが常でした。その他にも売り初め、店開きなどの口上にも太鼓を使っていました。大坂で太鼓を使うことはこの他にももっとあったに違いありません。

江戸時代の被差別部落の一つである渡辺村は摂津役人村ともいい、大坂の町の人たちが安全に生活できるように、奉行所のもとで様々な仕事をしていました。また、太鼓をはじめ人々の生活に欠かせない皮を使った製品を作っていました。

難波の夏祭りの囃太鼓『摂津名所図会』

江戸夜中時廻の図

江戸にては夜の時は拍子木にて知らする

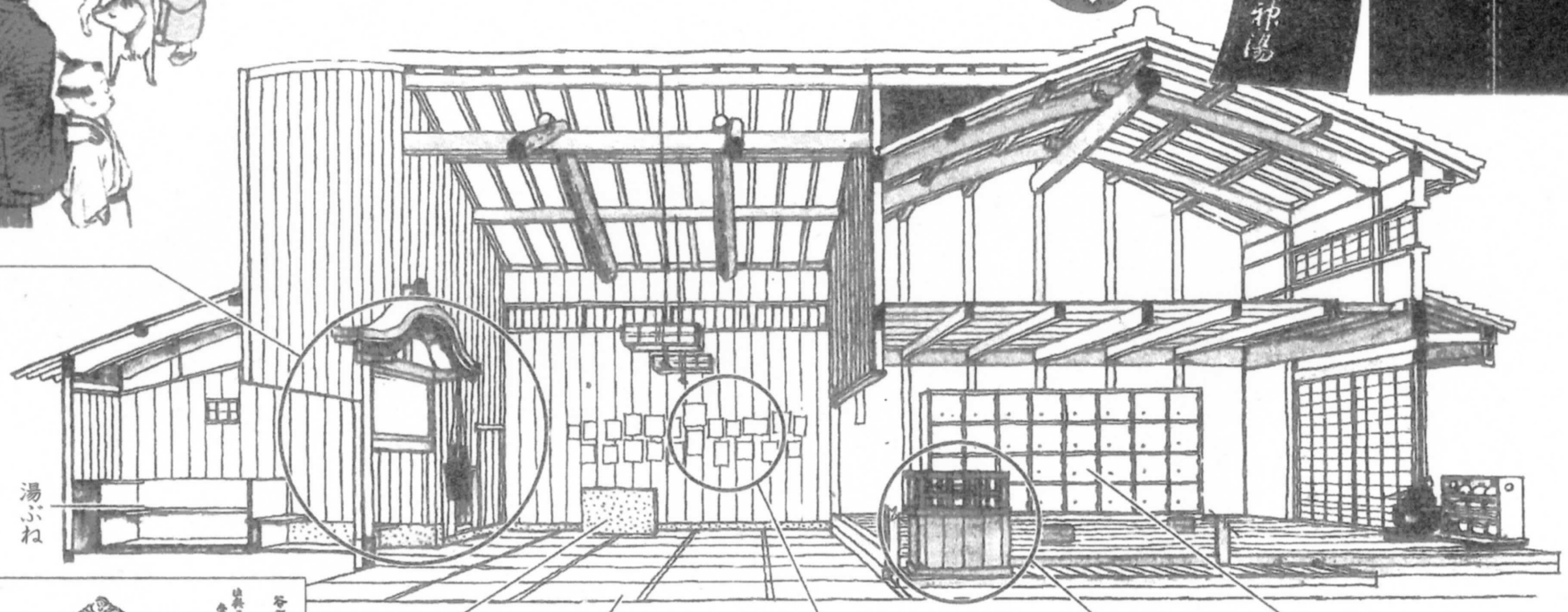
大阪夜中時廻の図

大阪にては夜の時を知らするには太鼓にて廻る

『街能噂』

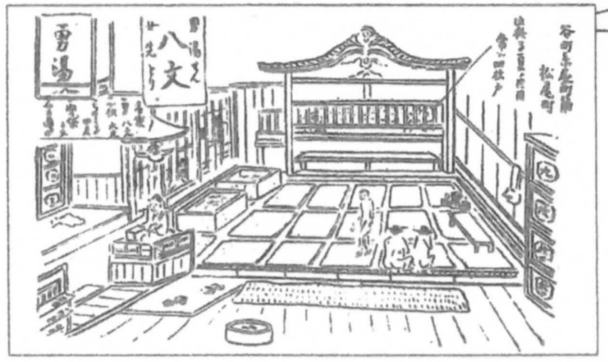
風呂屋（ふろや）

裏長屋に住んでいる伝蔵です。私が毎日のように通う天神湯を紹介します。天保のはじめのころの大坂の風呂屋は、まだ入込湯でした。営業は朝から始まり夜まで入れますが、夕方には火を落としてしまいます。これは、火事に対する気配りのためです。江戸と違い大坂では洗い場が石敷きになっています。浴槽に入る前に体を洗い、湯につかり上がり湯をいただいてさっぱりするのです。



ざくろ口

浴槽に入るには、ざくろ口をくぐって入ります。湯気を外へ逃がさないように工夫されたものです。よく頭をぶつけたものです。



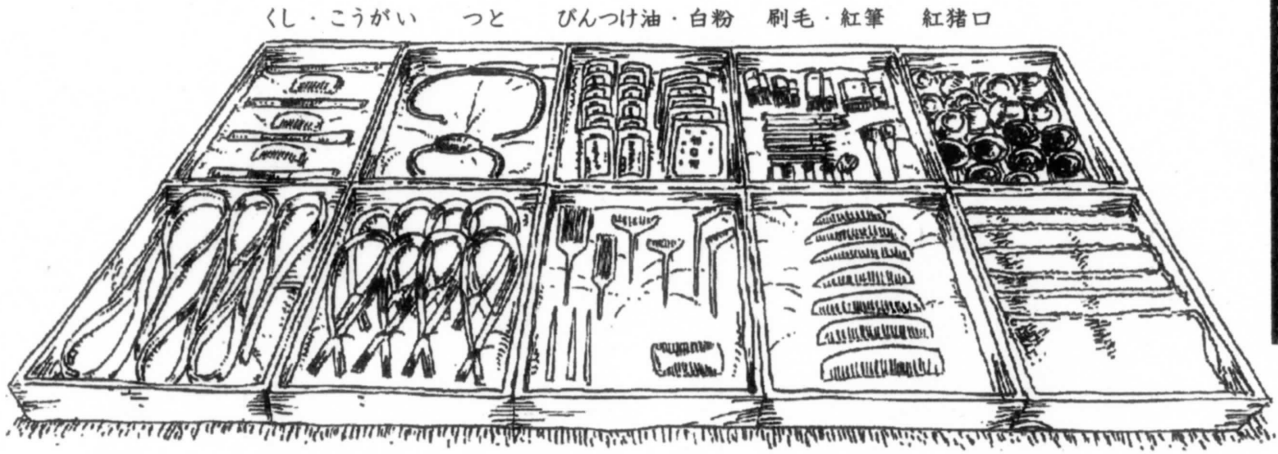
イラストレーション© 穂積和夫

大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館

こまものや 小間物屋

丸屋で手代をしている修之助といいます。女性の身だしなみは今も昔も変わらないものですね。流行に敏感な平成の世にもさまざまなものが売られていることでしょう。

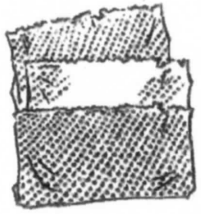
この店では、店先に商品を飾り販売するかたわら、私や丁稚がお得意様の家まで出向いて品物を選んでいただくこともあります。あちらのお嬢様には何が似合うか、こちらのご僚さんにはあれが似合うと考えるのも手代としての私の勤めです。一度のぞいてみてください。お待ちしています。



びん出し
耳ぎわの髪を出すために工夫された歯の長いくし。

たけなが 丈長
和紙を細長く切って平らにたたんで、元結のうえに飾りとして結ぶもの。

もとゆい 元結
髪のもとどりを結ぶための糸・紐をいう。



かのこ 鹿子
鹿の子どものような斑から絞り模様の名がついた。

つと
日本髪の後ろに張出した部分をまとめるもの。

べにちょく 紅猪口（口紅）
猪口の内部に紅を塗りつけたもの。

びんつけ油（整髪料）
髪のみだれをふせぐためのロウと油を練り合わせたもの。

足田屋

足田屋

足田屋

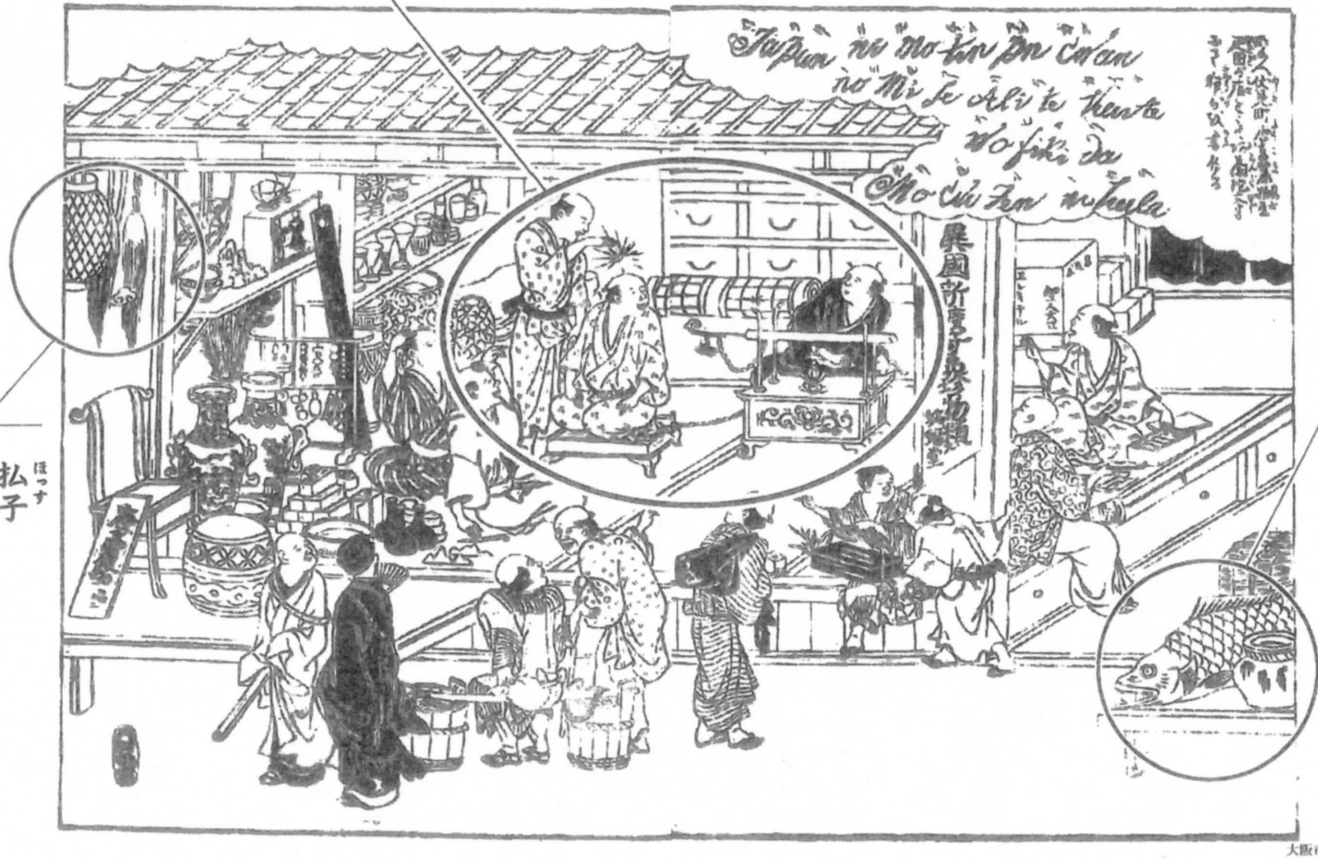
唐高麗物

からものや 唐物屋

三人娘でお馴染みのおきんです。町ではちょっとした物知りとして有名です。足田屋さんは、皆さんの時代にもある高級輸入品をあつかうお店で、天保の世では書物にも紹介されたほどのお店です。何がすごいって、最近になってエレキテルが店先に登場したのです。あの平賀源内先生の発明された摩擦起電機。平成の世ではこの原理はよく知られていると思いますが、私たちの時代では、病気の治療に効果があると信じられていたのです。

エレキテル

江戸時代、魔法の箱と呼ばれる電気を起こす機械が誕生しました。源内は「人の体から火を出して病を治す器」として治療を行ったり、大名の前でデモンストレーションをしたり、宣伝しました。当時はまだ静電気の概念はなく大きな驚きで日本中の話題になったそうです。



『摂津名所図会』

魚板（ぎょばん）

魚の形をし内部を空洞にした木製の仏具。よく禅寺などで使われ、時刻に合わせてたたいていたものです。

払子（ほっす）

禅寺などで煩悩を払う標識としてつかうもの。もともとはインドで蚊や蝿を払う道具として使われていたといいます。

大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館

あいぐすりや 合薬屋

肥後屋で丁稚奉公をしている庄吉と申します。

旦那さんや手代さんに教えていただいたことによると、合薬とは人それぞれの体質に合わせて効き目のあるようにまぜあわせた薬のことだそうです。お客さんの体の具合をよく知らなければできない商いだと教えていただきました。

ウルユスという薬は最初の洋名売薬として大坂や江戸で有名でした。オランダからの輸入薬と思われ、約一世紀の間よく売れました。

漢字の「空」ス（旧字「空」）をばらばらにしてカタカナ読みすると、ウルユス。つまり体の悪いものを出して空にしますという意味。

成分は大黄。複雑な処方をしたものではありません。ネーミングで売れたといってもよく、いかに商品のネーミングが大切かを教えてくれます。

いしうす 石臼

目立てをした上下の石の間に薬種を入れ、回転させることによって細かく砕き粉にする道具。

やげん 薬研

漢方の薬種を細かく砕き、粉にするための道具。軸のついた車輪のようなものを舟形にきしらせて押し砕く。

だいどころ 台所

長屋に住んでいるおしげです。薬屋さんの台所は、広いし井戸があるし使い勝手がいい。私も一度でいいからあんな台所で思いっきり腕を振るってみたいものです。水屋・へっつい・走り・水壺と一列に配置され、台所をあずかるものにとっては動きやすいつくりになっています。長屋のように外で洗濯、洗い物をするのとは大違い。皆さんが今お使いのシステムキッチンとくらべてみて、いかがでしょう。

『都鄙安逸伝』

へっつい

薬屋のへっついは、四口もあります。大勢の客を迎えるときは大釜で煮炊きをし、ふだんは二升や七升の釜を使い、茶釜はいつでもお茶を出せるように沸かしていました。

走り（はしり）

長屋の走りはシンクだけですが、薬屋さんの走りは左に水をためておく水槽がついています。井戸からくんだ水で洗い物をするにはたいそう便利。

消壺

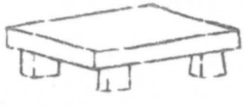
おきびを入れて密閉し火を消してしまうもの。薪や炭でつくった消し炭は、軽くて柔らかくて火がつきやすい。燃料の節約にはもってこいの智恵。

鍋

食べ物を煮たり煎ったり炒めたりするのに、たいへん便利。ふつうは把手がついていますが、大坂では把手のないものが一般的。

まな板

大坂のまな板は、隅に四本の足がつきます。お江戸からこの町へ来られた方は、はじめて見るとびっくりされます。

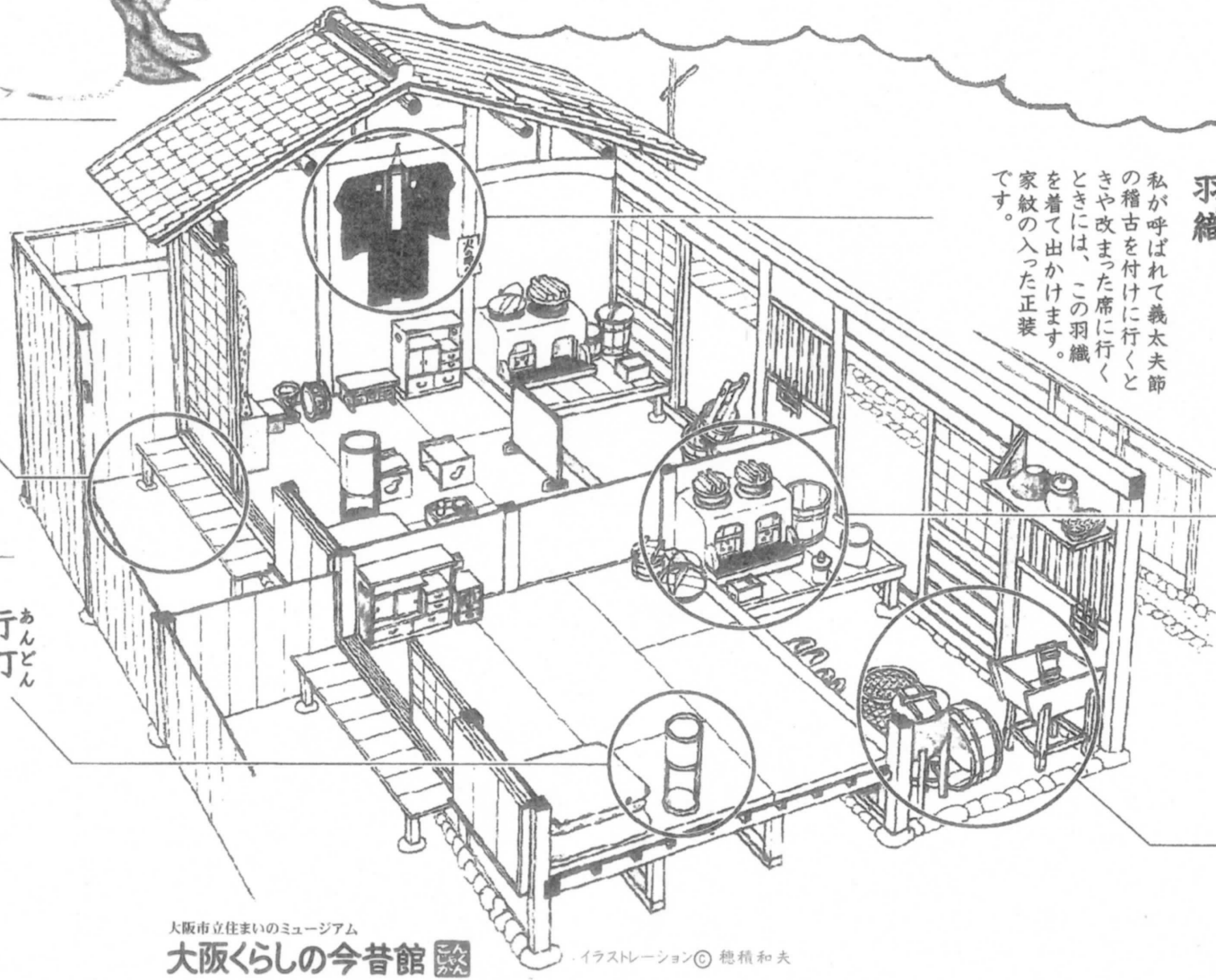


『街能噂』

大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館

うらながや 裏長屋

私が長年住んでいる長屋を紹介しましょう。建物は一棟ですが、四家族が住めるようになっています。共同で使う井戸と便所があり、井戸端では、ご婦人方が和気あいあいと会議をなさっています。路地口に近い順番に紹介すると、最初は住んでいた方が引っ越してしまった空家。二番目が腕のいい大工で作兵衛さん夫婦、三番目には青物の振り売りをしている伝吉さん夫婦、お子さんが一人。そして、義太夫節の師匠として余生を送っている私が暮らしています。



へっつい

煮炊きをする道具。火打ち石を使ってほくちに火を移し、付け木でさらに火を大きくし、薪や柴を燃料とします。煙が目にしみます。皆さんの時代にあるガスコンロです。

羽織（はおり）

私が呼ばれて義太夫節の稽古を付けに行くときや改まった席に行くときには、この羽織を着て出かけます。家紋の入った正装です。

縁・裏前栽（えん・うらせんざい）

小さいながらもやはりわが家。陽にあたりながら昔を思い出したり、盆栽の手入れをするのも楽しいものです。

走り（はし）・水壺（みずつぼ）

野菜を洗ったり米をといだり炊事をするのが走りです。また大坂の水は金気が強く飲み水にはなりませんから、買った水を水壺に溜めます。

行灯（あんどん）

明かりをとろうとすれば行灯に火を入れます。燃料菜の花の種をしぼった油です。蛍光灯のようにはいきませんが、なんとか字が読めます。

大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館

イラストレーション© 穂積和夫

大阪市立住まいのミュージアム

大阪くらしの今昔館

こんじゃくかん

Osaka Museum of Housing and Living

入館チケット

Admission Ticket

常設展

（一般）

2022

12. 22

当日限り有効

14:31

¥600

02-00083